

親しく正しく和やかに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫=大本山本興寺御開士大平日晋上人

寺てらす

楽寿

No.33

平成30年6月1日発行

本覺山 妙壽寺 (法華宗(本門流))

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1

電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427

ホームページ <http://myojuji.or.jp>

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗(本門流)

本覺山妙壽寺が発行する寺報です。

檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに

広くお読みいただければ幸いです。

無縁社会と寺縁 その30

来る7月16日當山は、盂蘭盆会施餓鬼法要を迎えます。毎年数十名の方々を新盆供養として、多くの御僧侶にご回向いただき、初めてのお盆の御供養とさせていただきます。

本年新盆を迎えられる當山総代大野典也先生は、百二歳のご長寿を全うされた御母堂に対する孝養のお姿は、頭の下がるものであります。それは、御母堂が大野先生を幼少の頃から教育熱心な埼玉県秩父から東京に転居させて、やがて医学の道へ進むこととなったその礎を築かれたことにも由来するものと思えます。ご自宅にお伺いした折は、先生を中心に、御母堂様に対する御題目の唱和するお姿を忘れることができません。

同じく、當山総代植田新太郎氏は、今を去る19年前、ご自身の御母堂様の新盆に御夫妻で参拝をされました。普段からダンディで温厚、誠実であられた同総代は夏物の背広を着用してのご焼香、お背中が汗でびっしょり濡れているお姿を拝し、改めて早くに御尊父を亡くされ、毎月22日に御墓参、そして新仏である御母堂様への日頃の孝養(親孝行)に感銘したところでありました。

大野先生、植田様御総代共に、妙壽寺に對する多くの志、それは、お寺を守り正しい方向へ導くご意見やご提案、そして、住職はじめ職員一同に對するアドバイスやご配慮など、本当に多くを頂戴いたしました。誠にそれは「語録」が作成できるほどの貴重かつ示唆に富んだお言葉であり、私共の修行の糧とも申せましょう。そのことは、それぞれのお仕事や専門分野において大成された業績や、その中で人々を指導され、共に協力、支援をされた尊いお志によるものであると、今あらためて思い至ります。

お二人のお寺に對する尊いお気持ちの数々を大切にしながら、これからも寺門の護持と発展に精進して参りたいと、ここに、改めて思い至る次第であります。



昨年8月10日、猿江別院において再建にご協力いただいたアーティストの一人、北川原祥氏演出の朗読者公演「刺青」(谷崎潤一郎原作)が奉納されました。出演した奈佐健臣氏(朗読、写真上)、河崎純氏(コントラバス奏者、同下)。



猿江別院

大祭法要&初回写経会

5月1日、快晴のなか、恒例の猿江別院大祭法要が奉修され、近隣崇敬会(すうけいかい)氏子(うじこ)、及び当山檀信徒40余名が参拝されました。この日は、落慶から1周年にあたり、一建立の稲生恵子夫人も焼香され、併せて別院御宝前では、当山二世開山日崇上人、第二十五世妙恵日恵尼上人の祥月忌も奉修されました。法要後、錦糸町の東武ホテルレバント東京にて昼食・懇親会が行われました。

これに先立ち、4月13日、当住久美夫人主宰の第1回写経会が開催され、参加者は堂内の静寂のなかで写経に取り組んでいました。(寺日記参照)



寺日記

てらにつき

- 3月7日 法華宗教学研究発表大会
於 京都メルパルク
- 3月10日 東京大空襲戦没者慰霊法要
正隆会有志10余名は両国・東京都慰霊堂にて東京教区青年会行脚をお待ち受け、唱題回向が行われました。その後、人形町・宗務院に移り慰霊法要が奉修されました。
- 3月11日 東日本大震災祥月忌
宗務総長二瓶海照台下御導師により、宗務院御宝前にて奉修されました。
- 3月13日 立正大学北川先生古希記念論文集捧呈並びに祝賀会
於 パレスホテル東京
- 3月16日 川崎家婚礼法要
当山御宝前において、当山世話人川崎裕司氏と杉村麻衣子さんの結婚奉告法要が奉修されました。(写真)
- 3月21日 春季彼岸合同法要
300余名ご参拝。
- 4月4日 大本山光長寺晋山式
沼津市大本山光長寺において、第七十九世原井日鳳下晋山式が桜満開のなか、盛大かつ厳肅に奉修されました。
- 4月7日 烏山仏教会花まつり法要
於 源良院
- 4月8日 徳島市妙法寺輪番法要
5年に一度の妙法寺(住職・佐々木明兼上人)
- 3月7日 輪番法要が四国教区宗務所長岡村祥光上人(高松市本覺寺住職)御導師にて奉修されました。
- 4月11日 法華宗千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要
- 4月12日 植田総代お別れの会
於 帝国ホテル(裏面参照)
- 4月14日 宗務院久永見隆書記妙壽寺送別会
於 新宿エラワン東京
- 4月25日 門祖日隆聖人富山誕生寺報恩法要
- 4月26日 赤坂円通寺中里先生(東京ブレイククラブ)本葬儀
- 4月27日 第102回宗教法法制研究会
於 弁護士会館
- 4月30日 新宿浄風寺晋山報告法要
昨秋、京都大本山妙蓮寺ご晋山の別所日山親下ご自坊にての報告法要、祝賀会。
- 5月9日 徳島市妙典寺新鐘樓火入れ式
於 高岡市老子(おいご)製作所
- 5月12日 大宮八幡宮(杉並区)献茶式
裏千家淡交会東京第6束
- 5月15日 京都妙法院参拝・懇親会
天台宗京都五箇門跡の一つ、妙法院門跡ご晋山の杉谷義純先生(東京ブレイククラブ)を訪問、参拝。その後、懇親会が行われました。

正隆会 千葉御霊跡参拝旅行



正隆会は宗祖御生誕800年を記念して、5月14日、御生誕の小湊、御修学の清澄山、そして茂原市大本山鷲山寺を参加者20余名にて参拝いたしました。(写真=旭ヶ森日蓮大聖人御尊像の前)

清明庵報恩法要

4月23日、清明庵護持の刀自(老夫人)方の報恩法要が10余名にて皀月満開のなか奉修されました。



日蓮教会彼岸会及び花まつり

3月25日快晴の空の下、サンフランシスコ日蓮教会において、「春彼岸・花まつり」法要並びに宗本スミ子さんのご葬儀、ロナルド・吉田さんの四十九日忌法要が園田顕敦御導師により50名近い参加者を得て奉修されました。



妙壽寺 2018 夏秋スケジュール

7月16日 盂蘭盆会施餓鬼法要 2時

9月23日 秋季彼岸会合同法要
初座：11時、第二座：2時

11月3日 御会式・宗祖御生誕800年度讃法要並びに
昭和本院落慶35周年記念法要 2時
お稚児さん募集(別紙参照)

*催しの参加お申込は、別紙詳細参照願います。

正隆会

[SHORYU-kai]
午後2時開催

月例講
ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華經についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟裏前法要を奉修しております。

- 6月9日(土) 勉強会「法華經の略要品」拝読-5-
- 7月14日(土) 講師勉強会(興隆学林教授 平島盛龍先生)
- 8月 休講
- 9月8日(土) 勉強会「法華經の略要品」拝読-6-
- 10月日程未定 秋のウォーク企画中
- 11月10日(土) 写経会
- 12月8日(土) 三千遍唱題行、勉強会「法華經の略要品」拝読-7-

猿江別院御写経会のご案内

昨年5月に建立された猿江別院は、当山の月例講である正隆会の開催を通して、檀信徒の皆様をはじめ、地域の方々への法華經信仰の伝道などをめざしております。その先鞭として「御写経会」を開催致しますので、ご参加をお願い申し上げます。

- 日時：各回すべて金曜日、午後1時より午後7時に開催
- 第2回 平成30年6月8日
 - 第3回 平成30年8月3日
 - 第4回 平成30年10月5日
 - 第5回 平成30年12月7日
 - 第6回 平成31年1月11日

詳細は、別紙ご案内をご覧ください。

当住上人の

宗務院 DIARY

- 3/14 ▶ 各布教機関連絡会議
- 4/24 ▶ 内局会議
- 4/6 ▶ 紛議懲戒審査会
- 4/25 ▶ 誕生寺門祖会
- 4/6,5/22,5/30 ▶ 責任役員会議
- 5/10 ▶ 京都教区宗務所長補選開票
- 4/17-18 ▶ 宗門史編纂委員会
- 5/23-25 ▶ 第73次定期宗会
- 4/19 ▶ 宗務顧問会
- 5/30 ▶ 全国宗務所長連絡協議会
- 4/20 ▶ 学林後援会、学林理事会
- 5/30-31 ▶ 宗務所長会

予告

11月24日(土)

一之輔落語×竹灯籠能「紅葉狩」

詳細は次号でお知らせ致します。

哀惜

平成26年11月20日ご遷化の大本山本興寺第一二九世大僧正大平日晋猯下を偲んだ、当住上人による追悼文と、本年1月16日ご逝去された総代植田新太郎氏の「お別れの会」での、御子息・友宏氏のご挨拶文をここに掲載致します。

「植田新太郎お別れの会」

御礼とご挨拶

ウエダジュエリー代表取締役社長

植田友宏

本日はご多用中にもかかわらず、植田新太郎の「お別れの会」にご参加賜り、心より御礼申し上げます。

故人は、1937年に東京有楽町に生まれ、慶応義塾大学経済学部を卒業後、1884年創業のウエダジュエリー（株式会社植田商店）に入社。その後1963年に父、富士朗逝去に伴い3代目社長に就任し、2004年に会長に就任するまでの41年間、日本で最も古いジュエリーの社長として会社を牽引し、歴史を積み重ね、発展させてまいりました。

大平日晋猯下御令孫 寛龍上人より、学林紀要に上人の思い出を記すようご依頼があり、重ねて恩師大平宏龍上人からもお話があり、日晋猯下のことを偲び、拙い一文を寄せることとなりました。

顧みれば、大平日晋上人と自坊妙壽寺中興先々代日照上人との出会いが大きな縁と感じ入っております。日照上人遷化後出生の自分としてその三十七回忌に追想集を編み、御宝前に奉呈させて頂く中に大平日晋上人、あるいは森日行上人、芹澤泰寛上人よりお寄せいただいた一文は人生の教科書のように感じ入ったものでした。

昭和十六年、曼荼羅不敬事件直後に妙壽寺に起居された上人は、その追想の御文の中で日照上人の僧侶としての生活や活動、家族、檀信徒との交わり、あるいは対外的な活動、交友等についての思い出を綴って頂いております。

日照上人のお使いとして、法華経の講義を盛んにしておられた法華会の小林一郎先生、あるいは日本画家の伊東深水画伯のもとに参上する機会を得たことはそのご配慮であると感じます。

昭和十六年、曼荼羅不敬事件直後に妙壽寺に起居された上人は、その追想の御文の中で日照上人の僧侶としての生活や活動、家族、檀信徒との交わり、あるいは対外的な活動、交友等についての思い出を綴って頂いております。



大平日晋猯下

「ヨーロッパ型のプライベートジュエリーを目指す」

大学卒業の年、1961年に当時専務の叔父義巳とフランス・イタリア・スペイン・イギリス・北欧等の欧州各国のジュエリーを歴訪、特にパリのヴァンドーム広場のショーメで見た上品な老婦人が紳士的なスタッフと楽しそうに会話をしている光景を見、「ヨーロッパ型のプライベートジュエリーを目指す」という目標が出来、同じ創業年のローマのブルガリでは当時のブルガリジュニアから直々に数々の逸品を3日間に渡り見せてもらい、強烈なカルチャーショックを感じ、デザイン・素材・つくりの面で品質の向上を図る体制の必要性を感じ帰国しました。

1965年には日本人として2人目となるアメリカ、ロサンゼルス、GIA（米国宝石学会）のダイヤモンドと色石に関するセミナーに参加し、従来の経験と勘にと記されております。若い感性の青年僧と斯界の大家との出会いは上人の大きな思い出であったと推察されます。

上人ご上京の契機については、日照上人長男の教師養成についてであり、これが縁となつて一箇年ご法助いただいたことは先に述べた如くであります。

上人がその後興隆学林において、多くの生徒を教導される上で、これらの御経験がその一助となつたとすれば、日照上人に連なる末弟として嬉しく存する次第であります。

昭和八年生まれの叔母は、今も上人におぶつていただいた思い出を、その優しい温かさとともに私どもに語りかけます。後年、興隆学林長として、また大本山本興寺御貫首、道場長として生徒と接する上人の慈愛に満ちたお人柄が偲ばれます。

阪神大震災の折、お衣をつけた上人が机とともに飛び上がり、駆け付けた山内のお上人が粉塵の中に居られた上人の居住まいの正しさに感銘を受けたと聞いております。

また被災後、作務衣にて生徒と共に復旧作業に励む上人の姿は彼らの心のうちに長く僧侶の範として残ったと聞き及んでお

頼った鑑定評価から、科学的客観評価へのシフトの必要性を痛感し、GIAの基準に則ったダイヤモンドの自社鑑定をいち早く導入しました。

1973年、為替、金が自由化されたのを受け、直ちにイタリアに飛び、フィレンツェ、ミラノ、ヴァレンツァで本場のゴールドを買い付け、帝国ホテルで「イタリア展」を開催し、日本のイタリアンジュエリーブームの先駆けとなりました。

自分の目で見、触発された本場欧米の名門ジュエリーを目指し、日本でジュエリーデザイナーと言った職種が無かった時代から商品デザイン部を立ち上げデザイナーを育成し、仕入れ、デザインから作り、販売まですべてを自社で行うという日本では珍しいオリジナルジュエリーを扱う専門店、本格的なジュエリーへと変革させていきました。

「多くの方々とのお出会いと交流に支えられて」

プライベートでは小学校時代2年間小児結核のため休学留年した経験もあり、大学の4年間、高校時代の仲間達とバスケットボールの同好会（KIC）を結成しキャプテンとして活躍、健康な体になります。

妙壽寺総代の内田祥哉先生（東京大学学名譽教授・学士院会員・建築学）が、文化庁の依頼で視察団の一員として文化財被災寺院であった御本山に視察に行かれた折、上人がお若きころに東京妙壽寺に居られたお話をされ、内田先生が自らの菩提寺であるとお答えされ、お二人がともに驚かれ、日照上人のことなど思い出を語られたと後年伺いました。

徳島妙典寺様新本堂落慶団参の後、國祐寺様にお参りし、お会いしたのが最後のおめもじとなりました。ご自身でお内仏でのお看経をお勤めになるとの話を伺い、そのご信仰と変わらぬ温かさに心温まる思いでございました。

ここに上人の長きにわたるご教導、御恩情、とりわけ先々代日照上人についてのご教示を心より御礼申し上げます。

（興隆学林専門学校「興隆学林紀要 第15号」平成30年5月16日発行 転載）

力を取り戻しました。故人がこよなく愛した母校、慶応義塾では幼稚舎・普通部、高校、大学と幹事役を引き受け、また、社外活動では東京JC（青年会議所）の理事長、東京ロータリークラブの会長、帝国ホテルアーケード理事長、雙葉学園理事長を務める等、地域、業界を越え多くの方々のお役に立ち、ご縁を大事にし、交流を深め自分自身を磨いた人生だったと存じます。

故人は26歳で先代の祖父富士朗を亡くし、その後54年間の命日である22日に、毎月世田谷烏山の菩提寺「妙壽寺」に墓参を欠かす、檀家総代を務め、先祖をとて大事にする人でもありました。

趣味は学生時代から始めたカントリーウエスタンで、会長職になってから本格的に活動を再開し、毎年11月に帝国ホテル「インペリアルサール」で開催していたライブを楽しまにしておりました。カウボーイハットを被り、少年のような満面の笑みで得意げにギターを弾きながら姿が鮮明に記憶に残っております。

故人を一言で表すと創業100周年の際にまとめた社是である「誠実」「奉仕」「融和」「存続」そのものの人だった、と感じております。母校からは「独立自尊」と「バランス感覚」を学び、近江商人である岳父（故・西川五郎）からは売り手よし、買い手よし、世間よしの「三方よし」の精神を受け継ぎ、仕事人・家庭人・社会人としてそれぞれが幸せになる最大公約数の実現を目指した人でした。

た。そして、帝国ホテル、仕事、仲間、家族が大好きでした。毎年子供供達、孫達からの誕生日カードを楽しみに、大切にアルバムに貼っておりました。

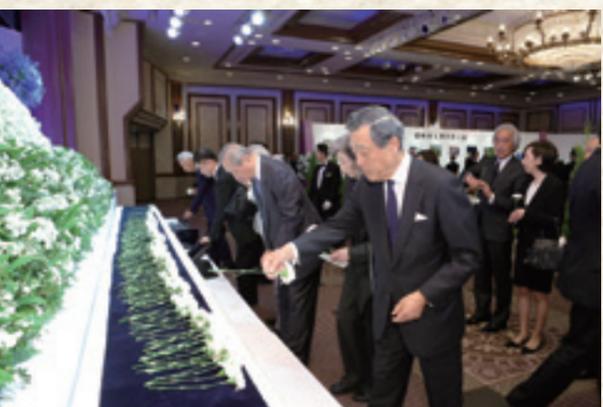
【日晋猯下プロフィール】
大平日晋（進龍）
（1915-2014）
愛媛県越智郡九和村（現、今治市玉川町）生まれ。宗学林（現、興隆学林専門学校）卒。
立正大学専門部宗教科卒。
國祐寺（香川県観音寺市）第二六世。
法華宗の教学部長、宗会議長、興隆学林第三代校長等を歴任。大本山本興寺（兵庫県尼崎市）第一二九世。昭和十六年四月、三吉日日照上人との御縁で妙壽寺に下宿しながら宗務院に出席していた当時、昭和法難に遭遇した。法壽百歳。

これからも故人の精神を引き継ぎ、皆様とのご縁を大切に、「世代を越えてお付き合い出来るプライベートジュエリー」として前進を重ねて参る所存でございます。

ここに故人が生前に皆様から賜りました数々のご厚情、ご厚誼に対しまして、謹んで御礼申し上げます。
2018年4月12日

【経歴】

- 1937年1月24日 父・富士朗、母・嘉代子の長男として東京・有楽町で生まれる
- 1943年 慶應義塾幼稚舎に入学
- 1961年 慶應義塾大学経済学部 卒業
- 1961年 株式会社植田商店 入社
- 1963年 株式会社植田商店 代表取締役社長（3代目）
- 2004年 ウエダジュエリー（株式会社植田商店）代表取締役会長
- ◆慶應関連◆
1957年 KICバスケットボール同好会設立（2017年創立60周年）
- 1988年 慶應義塾普通部同窓会 副会長
- 慶應義塾高等学校 卒業第8期代表 慶應義塾大学 102年三田会 副代表
- 1989年 東京三田倶楽部 代表
- 2012年 慶應義塾幼稚舎同窓会 常任幹事代表に就任
- ◆社外活動◆
1977年 東京青年会議所 理事長 わんぱく相撲を開催
- 1983年 帝国ホテルアーケード組合 理事長
- 1985年 法華宗妙壽寺 檀家総代
- 2002年 東京ロータリークラブ 会長
- 2013年 軽井沢会 評議員
- 2015年 学校法人雙葉学園 理事長



4月12日 帝国ホテル（富士の間）にて行われた「お別れの会」

大平日晋猯下追悼

温容をお偲びして

法華宗教学部長・妙壽寺住職 三吉廣明